

「新海洋混合学」国際活動支援申請書（2017年度分）

2017年12月 8日

計画班名： A03-5 北太平洋の海洋低次生態系とその変動機構の解明

申請者氏名・所属・職名：原田尚美・海洋研究開発機構・研究開発センター長代理

申請者連絡先 電話・メール：046-867-9504・haradan@jamstec.go.jp

対象者氏名・所属・職名：近本喜光・ユタ州立大学・助教授

対象者連絡先 電話・メール：PSC Department, 4820 Old Main Hill, Logan, UT, 84322-4820, USA ・+1-435-797-0832・yoshi.chikamoto@usu.edu

相手先氏名・所属・職名：原田尚美・海洋研究開発機構・研究開発センター長代理

相手先連絡先 住所・電話・メール：横須賀市夏島町2-1-5・046-867-9504・haradan@jamstec.go.jp

申請項目（複数可、数字を記入）：3, 5

1. 国際共同航海の調整,
2. 拠点形成に関わる派遣・招聘,
3. 国際共同研究関連,
4. 研究者派遣,
5. 海外研究者招聘,
6. 研究技術研修,
7. 研究動向調査,
8. その他
()

申請課題名：海洋生態系変動の予測可能性の研究における海外ネットワークの形成

具体的内容：鉛直混合が盛んな北太平洋において、長周期気候変動における予測可能性の研究は、鉛直混合が気候へ及ぼす物理過程を理解することだけでなく、海洋生態系変動の予測可能性を探求するうえでも、大変重要な研究テーマである。その研究に関する最近の動向を抑え、かつ、さらなる研究の発展を目指し、海洋生態系変動の予測可能性の研究に関する議論および共同研究の打ち合わせを行った。滞在期間中には、海洋研究開発機構、東京大学大気海洋研究所、北海道大学大学院環境科学院、および北海道大学低温科学研究所を訪問し、セミナー発表と小グループによるミーティングを行った。特に、海洋研究開発機構の原田尚美博士、野口真希博士および北海道大学低温科学研究所の関宰博士と共に、海洋生態系および気候、さらには陸域水資源までを統合した地球システム系における長周期変動について、最先端の気候モデルと現場観測データとを融合させる共同研究の可能性を模索した。

全体計画・計画研究への寄与：

近本博士が行っている10年規模予測の研究は、全体計画に組み込まれている「鉛直混合が長周期気候変動の予測可能性に及ぼす影響」の理解につながるため、今回の訪問を通じた意見交換は、国際共同研究を推し進めるための基盤を築く第一歩となった。この基盤は、

海外ネットワークの形成に大きく貢献し、本研究で得られた成果を海外に発信していく時に重要な役割を担っている。また、近本博士が行なっている10年規模気候変動における理解と、本研究計画のテーマである北太平洋の海洋低次生態系との間には、技術的および知識的な隔たりがあり、この隔たりを埋めるための共同研究の推進は本計画研究と全体計画とをつなぐ新たな成果の創出に貢献する。

実際の日程

6月22日 デンバー空港出発

6月23日 成田着

6月26日 海洋研究開発機構 滞在

6月27日-6月28日 東京大学海洋研究所訪問

6月28日-6月30日 北海道大学低温科学研究所訪問

7月3日 日本出発

使用した予算内訳(旅費とその他の経費に分けて記述):